

第43回全国選抜高校テニス大会 大会レポート

全国高等学校体育連盟テニス専門部
常任委員 佐藤 直樹



《 2年ぶりの全国選抜 》

昨年の第42回大会は、新型コロナウィルス感染拡大を防止するため、残念ながら中止せざるを得なかった。2年ぶりとなる今回の第43回大会は、感染予防に細心の注意を払いながらの開催となった。手指消毒や体温チェックはもちろん、試合後の握手や大声での応援をしない、観戦者を限定するなど新しい生活様式に則った運営となるよう心がけた。大会に関わる全ての皆さんに運営側の方針をご理解、ご協力いただき、本大会が無事開催できたことに感謝申し上げます。



《 リモートでの監督連絡会議 》 3月20日（土）

コロナ禍での大会開催ということで、感染防止対策として大会関係者が集まるのを避けるためリモートでの監督連絡会議を行った。



《 オンライン開会式、組合せ抽選会 》 3月20日（土）

選手同士の接触をなるべく避けるため、開会式ならびに抽選会はオンラインでの開催となった。開会式は帯広北高校の秋元悠選手、佐賀商業高校の武藤ひまり選手の選手宣誓からスタートした。両選手は、コロナ禍において大会開催に向けて尽力いただいた全ての人への感謝を胸に、先輩方の分まで精いっぱい戦い抜くことを声高らかに宣言した。次に、古賀賢大会会長、日本テニス協会の福井烈専門理事からご挨拶を頂戴した。



《 団体戦 》 3月21日（日）～25日（木）

男子はシード校である四日市工（三重）、湘南工大附属（神奈川）、関西（岡山）、柳川（福岡）、相生学院（兵庫）、新田（愛媛）、名経大市邨（愛知）、そしてノーシードの鳳凰（鹿児島）が8強入りを果たした。その中から勝ち上がり決勝へと進んだのは湘南工科と相生学院。2年前の第41回大会と同じ対戦となった。まずはS2、相生学院が2-0で勝利。次にS1、1セットのタイブレークを制した湘南工科が勝利した。D1は3セットまでもつれたが相生学院が勝利。さらにD2も勝利した相生学院が41回大会に続き5度目の優勝を果たした。



女子のベスト8は、シード校である四日市商（三重）、静岡市立（静岡）、松商学園（長野）、沖縄尚学（沖縄）、野田学園（山口）、相生学院（兵庫）と、シード校を3-2の接戦で破りともに勝ち上がってきいた岡山学芸館（岡山）、仁愛女子（福井）となった。決勝に上がったのは第1シードの四日市商。もう一校はノーシードから勝ち上がってきただ2校の対戦を制した岡山学芸館。S1は1セット目を取られながらも攻めの姿勢を崩さないテニスで2、3セット目をとった岡山学芸館の勝利。D1は四日市商が勝利したが、S2は岡山学芸館が制し王手。ここで、D2は1セット目のタイブレークを勝ち切った四日市商が2セット目もとり勝利。S3も四日市商が勝ち、優勝を決めた。





《 個人戦 》

例年通り、団体戦の登録No. 1選手による個人戦が予選は春日公園、本戦は博多の森で行われた。男子のベスト6は田中佑（湘南工科）、眞田将吾（四日市工）、松崎稜太朗（霞ヶ浦）、高妻蘭丸（大分舞鶴）、高悠亜（関西）、栗山晃太朗（相生学院）。決勝は団体戦準優勝校の田中と、優勝校の栗山を破った高の対決となった。高は強烈なフォアハンドを武器に果敢に攻め続けたが、巧みなサーブとさまざまな球種を用いてラリーを開拓した田中に軍配が上がった。



女子のベスト6は五十嵐唯愛（四日市商）、櫻田しづか（静岡市立）、宮原千佳（第一薬科）、中川由羅（浦和麗明）、中山友里（松商学園）、中島玲亜（岡山学芸館）。決勝は団体戦と同じ四日市商と岡山学芸館の対戦となった。中島のパワフルなラリーを前に、五十嵐は1セット目を落とす苦しい展開だったが、トレーニングで培った強靭な体力と巧みなボールコントロールで2セット目は6-4で勝ちきり、その勢いのまま3セット目も6-1でもぎ取った。

田中佑（湘南工科）、五十嵐唯愛（四日市商）の2名がU.S.オープンへのチケットを手に入れた。





《 終わりに 》

今回の団体戦では、セットカウント 3 – 2 の試合が非常に多かった。学校ごとの実力は僅差であり、どの対戦も非常に見ごたえのある接戦だった。中でも、D 1、D 2 を取った学校がその対戦に勝利することが多かったように思われる。

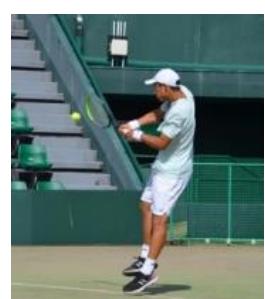
また試合終了後、男子団体戦優勝校である相生学院の選手が C R や観客に丁寧に挨拶をしている姿が印象的だった。周囲への感謝の気持ちを忘れない、強豪校の誇りを感じられる光景であった。



この 1 年あまり、新型コロナウィルスの影響で思うように練習のできない時期も多々あったと思われる。その中でも、各団体、選手一人ひとりが感染防止に努め、練習方法を工夫し、本大会へと勝ち上がって素晴らしいプレーを見せてくれた。今後の状況はいまだ不透明ではあるが、次年度の大会は多くの観客に見守られながら、選手が全力で試合に挑むことができる環境になっていることを切に願っている。



《 热战 1 》





《 热战 2 》

